

文化庁

48. 1

〈月報〉

昭和48年 1月15日 発行

編集 文化庁長官官房庶務課
発行

東京都千代田区霞が関3-2-2

電話 代表 (581) 4211

郵便番号 100

—〈第53号〉—

(題字=今日出海 前文化庁長官)



重要文化財紙本淡彩駿牛図断簡(東京国立博物館蔵)

- ▽年頭のことば……………安達 健二…2
- ▽日本芸術院新会員決まる……………3
- ▽芸術祭大賞・優秀賞決まる……………4
- ▽日本文化研究国際会議開く……………6
- ▽第二国立劇場設立準備協議会発足……………8
- ▽著作権講習会終わる……………8
- ▽著作権審議会小委員会の審議状況……………9
- ▽第二回優秀映画奨励金交付候補作品決定……………9
- ▽著作権シリーズ(二十五)……………10
- ▽高松塚古墳の保存について……………11
- ▽古照遺跡の保存について……………12
- ▽第二回集落町並保存対策研究協議会開催……………12
- ▽重要文化財尾形家住宅の修理成る……………12
- ▽旧近衛師団司令部庁舎の保存修理着工……………13
- ▽アジア地域の文化政策に関する国際会議について……………13
- ▽アジア太平洋地域博物館会議開く……………14
- ▽DAAD奨学生の選考結果……………15
- ▽AFS奨学生第三次選考試験実施……………15
- ▽国立劇場二月公演……………16
- ▽文化庁日誌……………16

第二国立劇場設立準備協議会発足

会長に高橋誠一郎氏

副会長に福井直俊氏、内村直也氏

オペラ、バレエ、オーケストラ、新劇、ミュージカルなどの現代芸能の創造普及のうえに中枢的な役割を果たすものとして芸術家、芸術愛好者のみならず、広く国民各層から強く期待を寄せられている第二国立劇場の設置については、昭和四十六年度から国において設置のための調査費が計上され、関係識者との懇談会を行ない、また文化庁職員による所要の欧米調査を行なうなど検討が進められているが、このたび一步を進めて正式に「第二国立劇場設立準備協議会」

を設け、より深い検討を行なうこととなり、さる十二月二十日、東京において第一回の会合がもたれた。

当日は、会議に先だって、安達文化庁長官から第二国立劇場に関する基本的な観点として、①第二国立劇場は単なる建物としての施設にとどまらず、現代芸能センターとも称すべき事業体である、②第二国立劇場の効果は、当該設置箇所にとどまらず、日本全域に及ぶべきものであるのみならず現代芸能の国際交流の中心的役割をになうべきである。③第二国立劇場は、現代芸能に関する資料や情報の収集、提供、現代芸能に関する調査研究などの事業や後継者の養成訓練なども

あわせもつことが望ましいことなど文化庁としての考え方が述べられた。

続いて、会長に日本芸術院長の高橋誠一郎氏、副会長に東京芸術大学長の福井直俊氏、劇作家の内村直也氏が選出されたのち議事にはいり、第二国立劇場設置の見とおし、事業内容、建物のあり方、建設地のあり方などについて活発な意見が交換されたが、今後は、協議会に第二国立劇場の目的、性格および事業について専門的に審議するための事業専門委員

会を置き、そこでの検討結果をまとめて審議を進めることとなった。

なお、第二国立劇場設立準備協議会委員は左の各氏である（敬称略・アイウエオ順）

蘆原敏信（蘆原英了）、井口基成、伊藤園夫（千田是也）、井上靖、今道潤三、江口博、加藤六美、河盛好蔵、桑原幹根、五島昇、今日出海、斉藤栄三郎、斉藤正、白石古京、菅原実（内村直也）、高橋誠一郎、中村せい（高田せい子）、日向美幸、福井直俊、福田恒存、降矢敬義、北条秀司、堀田庄三、前田義徳、宮沢縦一、村山松雄、吉国二郎、吉田五十八、渡辺浩太郎